

受領No.1437

グローバルサプライチェーンにおける 汚染物質排出構造の解明

代表研究者 土中 哲秀 中央大学(3/1以降:名古屋大学) 助教

A study on the emission structure in global supply chains

Representative Teshu Hanaka, Chuo University
(3/1以降: Nagoya University), Assistant professor



研究概要

1992年の国連環境開発会議(地球サミット)以降、環境保全と経済社会発展の両立を図る「持続可能な開発」が人類の共通理念となり、Sustainable Development Goals(SDGs、持続可能な開発目標)においても中心的課題となっている。この理念のもと、各国は環境・経済・社会の三側面から地球規模の目標にアプローチすることが求められている。企業レベルでは、目標達成のために、自社の環境負荷低減のみならず、「ゆりかごから墓場まで」のサプライチェーン全体を通じた環境負荷低減が不可欠となってきている。このような状況の中で、サプライチェーン全体の環境負荷を評価するライフサイクルアセスメントの重要性も増してきているが、経済活動のグローバル化に伴うサプライチェーンの複雑化により、環境負荷に対するステークホルダーの関係性や産業特性、産業構造を把握することが困難になってきている。そこで本研究では、ネットワーク分析と産業連関分析を融合させることによって、サプライチェーン構造を詳細かつ多面的に解析する。特に、サプライチェーンにおける汚染物質排出構造を把握することにより、環境に優しいサプライチェーン構築のための分析フレームワークの開発を目指す。